

移動の**起点**をデザインする

ゴンジロウ15年の試行錯誤



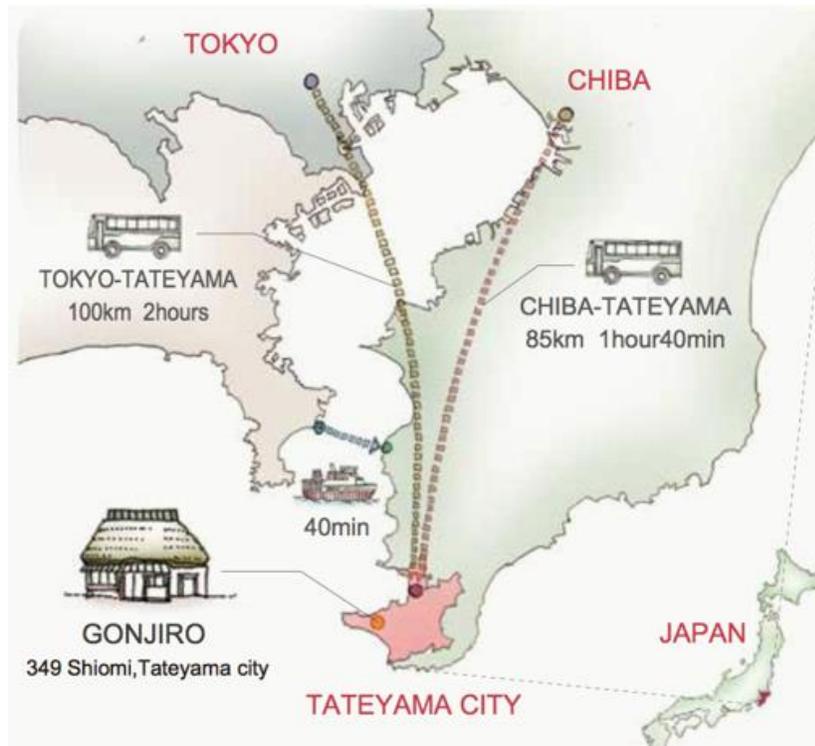
2024/11/29

岡部明子

東京大学 GSFS / ゴンジロウ

ゴンジロウとは？

当時千葉大学の教員であった岡部が
千葉県館山市と関わりを持ち始めたころ、
15年前に出会った廃屋寸前の茅葺民家のこと。
その屋号が『ゴンジロウ』。
房総半島の南端、内房の海辺の集落。

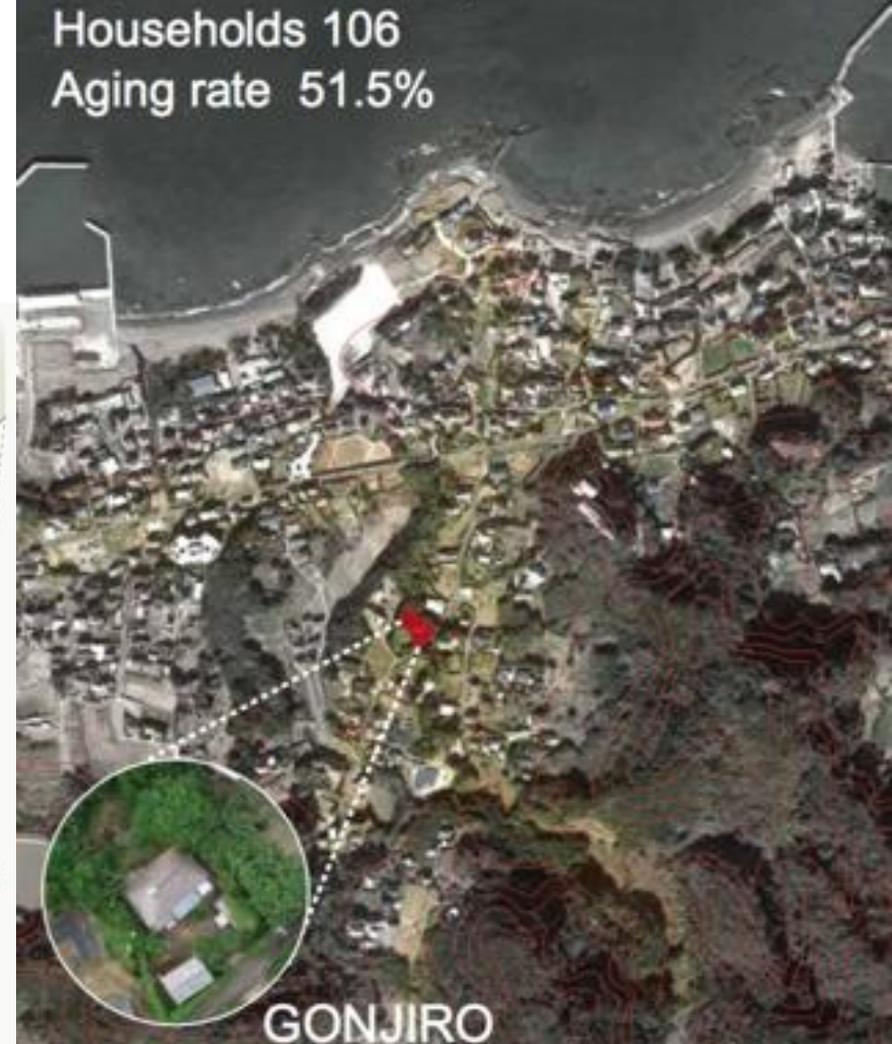


TATEYAMA, CHIBA, JAPAN

Population 215 people

Households 106

Aging rate 51.5%



ゴンジロウとは？

当時千葉大学の教員であった岡部が
千葉県館山市と関わりを持ち始めたころ、
15年前に出会った廃屋寸前の茅葺民家のこと。
その屋号が『ゴンジロウ』。
房総半島の南端、内房の海辺の集落。

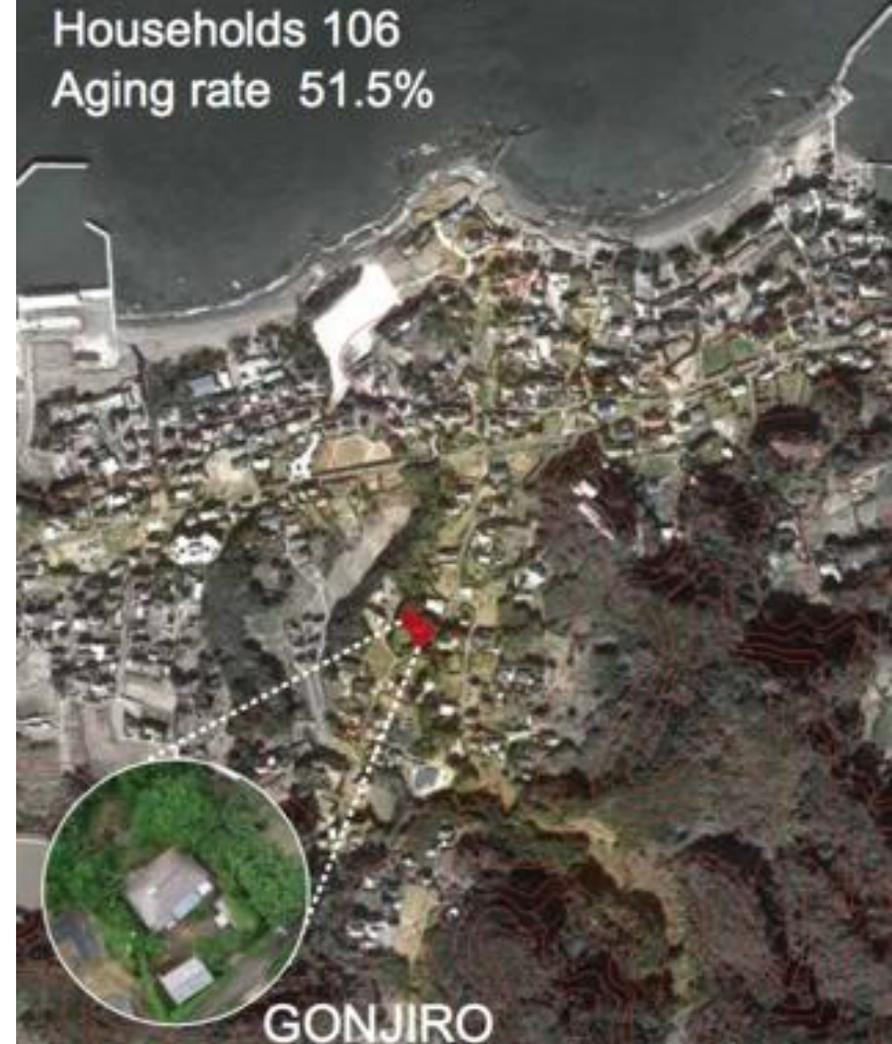
向かいにお住まいの持ち主の方からお借りして、
雨漏りを止めるための葺き替え作業から始まり、
学生や地域の方々とともに少しずつ蘇らせてきた。

TATEYAMA, CHIBA, JAPAN

Population 215 people

Households 106

Aging rate 51.5%



GONJIRO



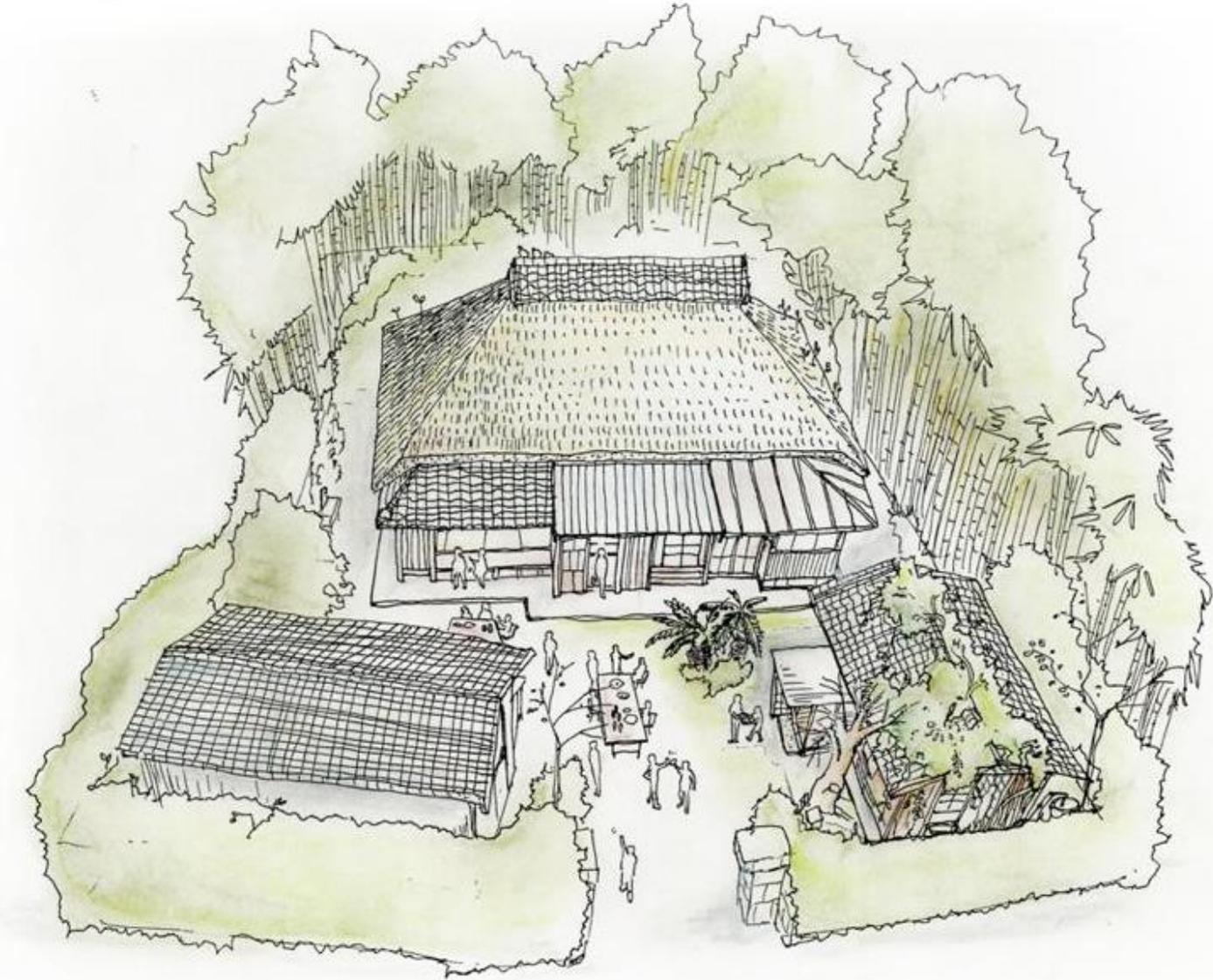


ゴンジロウとは？

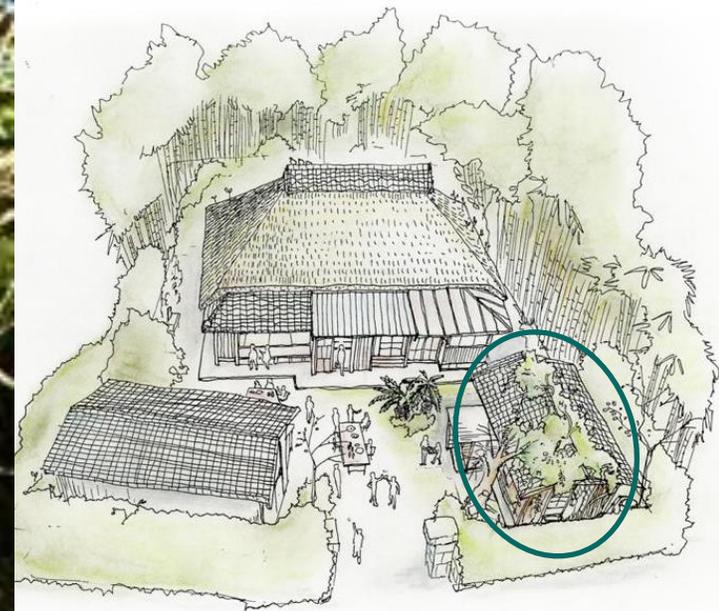
毎月25日の常会や地域の年中行事に参加。
毎年学生主体で、茅刈り、部分葺替え、餅つきなど。
月例協議会を地元の有志の方たちと開催。
防災、孤立死、ゴミ出し、
空き家、耕作放棄地など、
都度持ち上がった
集落内外の課題に取り組んできた。



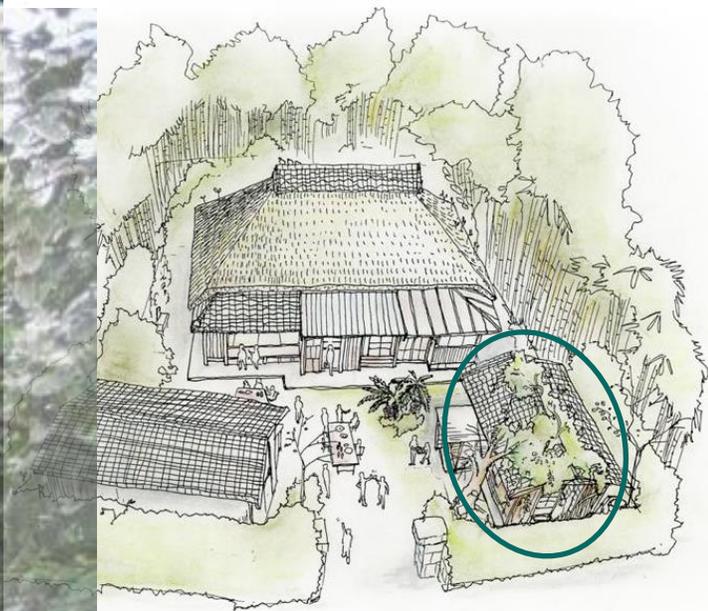
15年の試行錯誤を経て：ゴンジロウ 五ヶ条



- 住むこと
- お金がなければ頭を使う
- 引き継ぎしなくてもいい
- 土地の所有は動かさない
- いつやめてもいい



2013
廃屋キッチン



2013
廃屋キッチン



2013
廃屋キッチン

2019台風、2020 コロナ禍が転機に
NPO法人化

布良崎神社
神輿蔵



安房塩見
バス停

→ モビリティプロジェクト
「さきもび」のきっかけに



2021 観光庁 既存観光の高付加価値化事業
ジェイアールバス関東

2023 経産省 スマモビ事業
現地実証実験補助として参画

2024 国交省地域交通共創モデル事業

関連する修士論文：

生活者と来訪者（矢野）

〈よどみ〉の価値（日比野）

移動の起点（岡部峻丸）

さきもび2021 観光庁補助事業 交通事業者+地域の事業者複数が連携して エリアの高付加価値化を実現する

さき
もび

西岬
モビリティ
プロジェクト

モビリティ

モニターツアー

ワーケーション

貨客混載

サイクリング



© SAKIMOB I

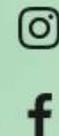


半島端

面白い

モビリティが

西岬モビリティプロジェクト「さきもび」



さきもび2021 モビリティが面白い半島端

観光庁補助事業
複数事業を組み合わせ
エリアの高付加価値化を実現する

事業1：モビリティ

- ・ 高速バス増便・延伸
- ・ 小さい乗り物（カート型4人乗り、コムス1-2人乗り）

事業2：モニターツアー

- ・ 2泊3日ゆっくり滞在、包摂的観光（高齢者・障害者）

事業3：ワーケーション

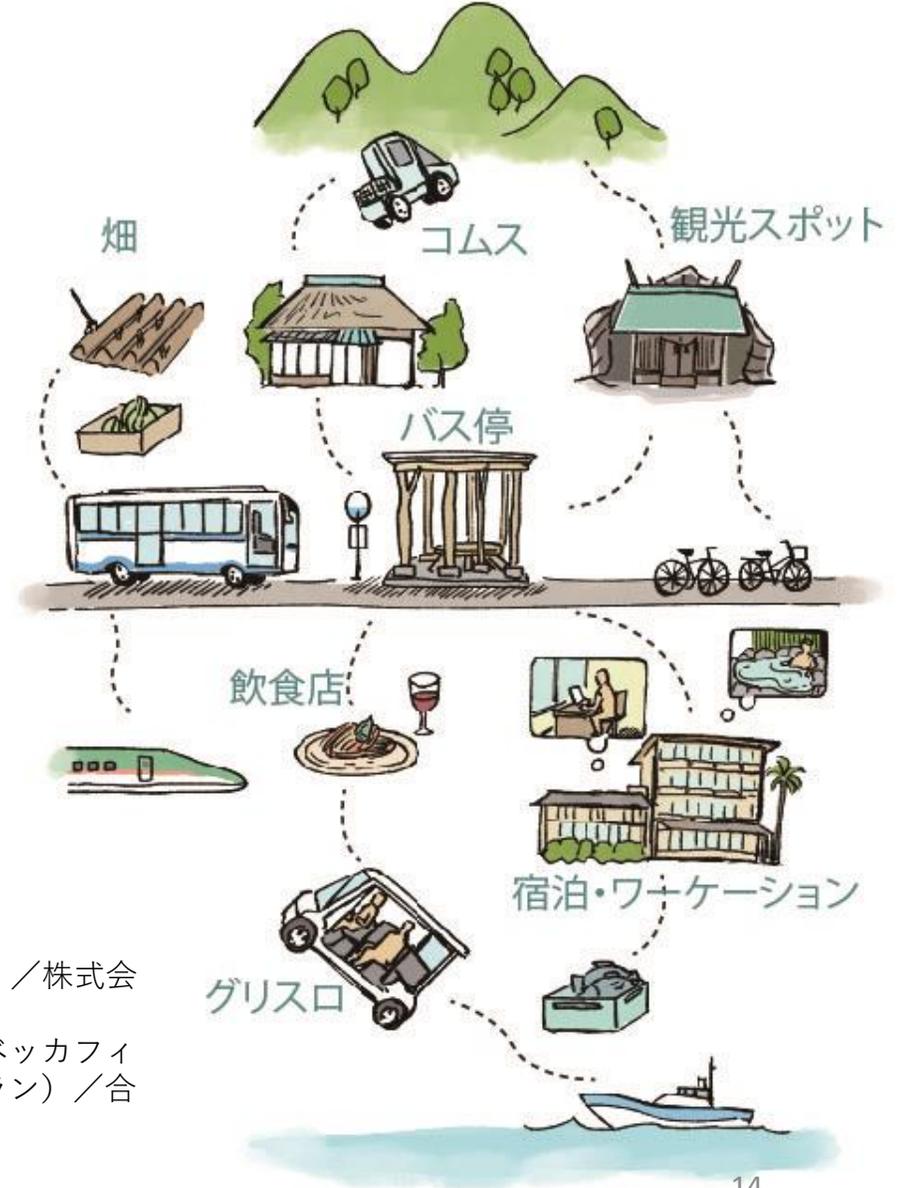
- ・ 宿泊施設改修、共用スペースを地域に開く

事業4：貨客混載

- ・ 乗合バス（高速・一般）で沿線産品などを輸送
- ・ バス停などで販売、沿線飲食店に配送

事業5：サイクリング

- ・ ローカル路線バス車両に自転車ラック増設
- ・ レンタサイクルと連携

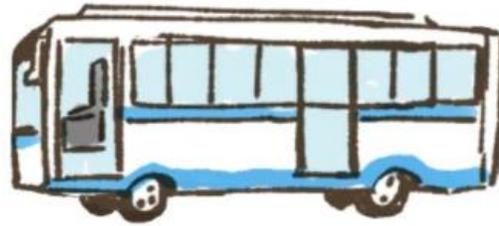


計画参加事業者
JRバス関東（交通事業者）／株式会社
こがね（宿泊）
／休暇村館山（宿泊）／ベッカフィー
ーコ（イタリアンレストラン）／合
同会社AWATHRID

ジェイアールバス関東 + 東京大学大学院新領域創成科学研究科の共同研究

館山市西岬地区において、路線バスと連携し

小さい乗り物を実証的に導入し、
マイカーを手放しても、なしでも、



生活者には、安心して住み続けられる
来訪者には、ふらっと入り込める地域を目指す

そして、乗り物が
生活者／来訪者の魅力的な交流のきっかけとなる



1 - 2人乗り超小型車 (コムス)



4人乗りカート (グリスロ)



スケジュール

6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月



観光庁補助事業
への応募

採択

交付申請

交付決定

調査・企画・協議

実証運行

事業終了

4人乗りカート（グリスロ）

気ままに寄り道、道草

- ・地元の方同士
- ・来訪者と
- ・運転手と

久しぶりにおしゃべりできた

（グリスロを）探していたら
7000歩も歩いちゃった

小さい乗り物は、
移動手段+コミュニケーションツール



1 - 2人乗り超小型車（コムス）

集う場が動いていく「回るおでんコムス」

ご近所から畑の野菜をいただく



おでんにして配る



移動と道草

修士研究

「生活者と来訪者双方が楽しめる持続的な地域モビリティの提案」
(矢野、2021年度)

- ・当初は、生活者と来訪者 一石二鳥のモビリティを探る 効率化
- ・効率的な移動より、**道草**したほうが生活者と来訪者双方が楽しめる！

道草が移動の価値?? 子どものころはそうだった…

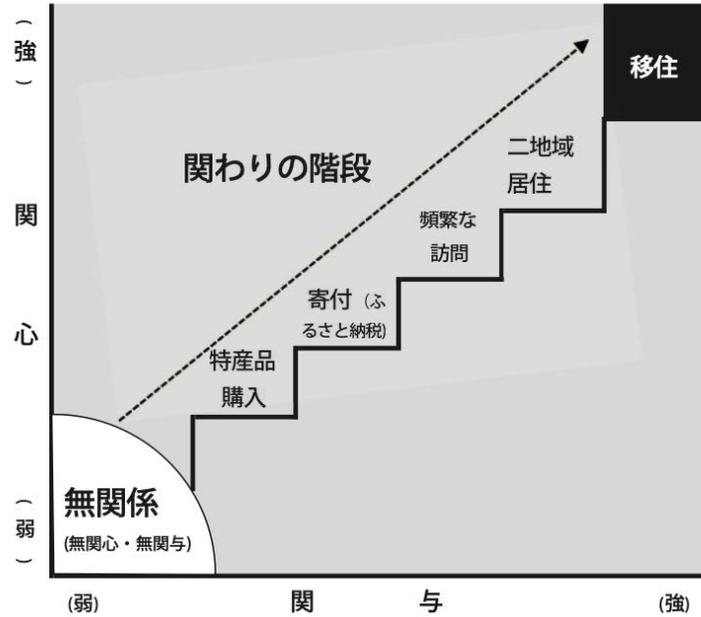
動いているほうが日常なのか、留まるほうが日常なのか

どっちがデフォルト？



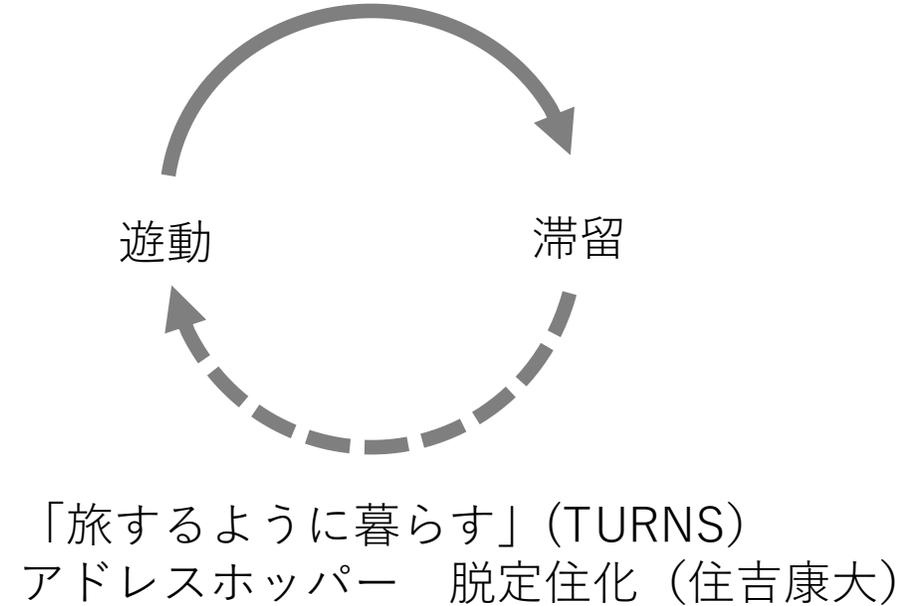
監督・撮影・編集：六戸大裕 / 音楽：末森樹 永無元 / 音楽構成・整音：米山靖 / 宣伝デザイン：林よし
宣伝イラスト：木下ようすけ / 題字：岡部亮佑 / 特別協力：全国自立生活センター協議会
助成：公益財団法人キリン福祉財団 / 企画・制作：映画「道草」製作委員会
【お問合せ】映画「道草」上映委員会：http://michikusa-movie.com/
2018年/95分/16：9/日本/ドキュメンタリー

どっちがデフォルトなのか、留まっているほうか、動いているほうか？

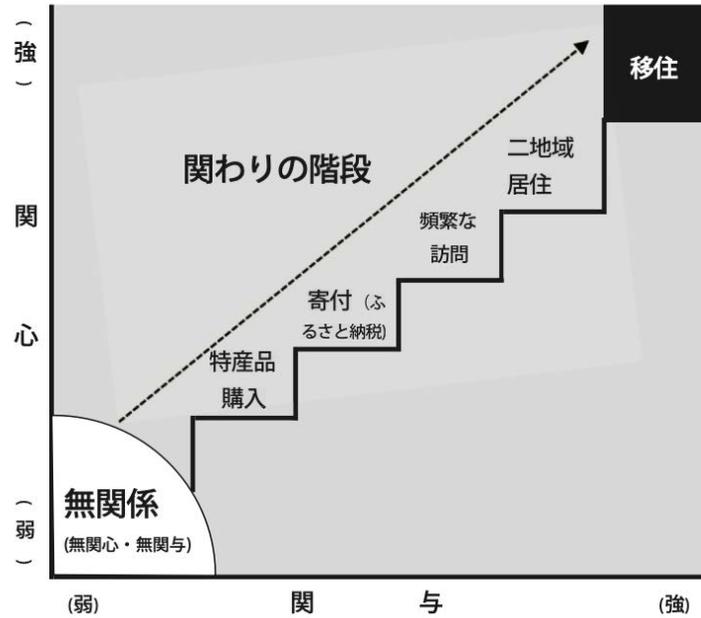
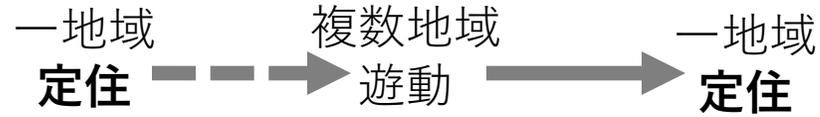


関係人口の図式化 (小田切)

二地域居住は、
地方移住へのステップ



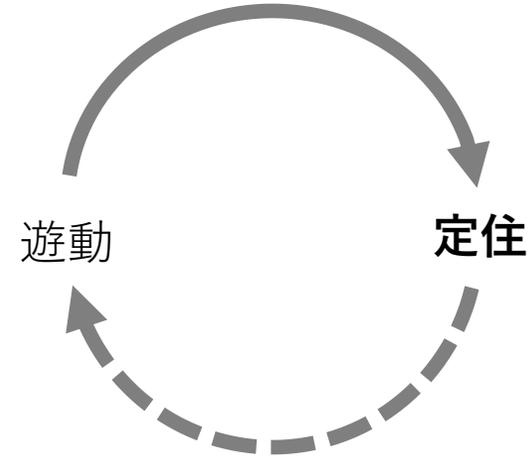
二地域居住は、
人間の生活そのもの



関係人口の図式化 (小田切)

二地域居住は、
地方移住へのステップ

定住がデフォルト



「旅するように暮らす」(TURNS)
アドレスホッパー 脱定住化 (住吉康大)

二地域居住は、
人間の生活そのもの

遊動がデフォルト

一般的には：

農耕するようになって定住した
人民を管理するのに定住が都合がよかった
より豊かさを求めて定住した
定住・統治国家への移行は不可逆

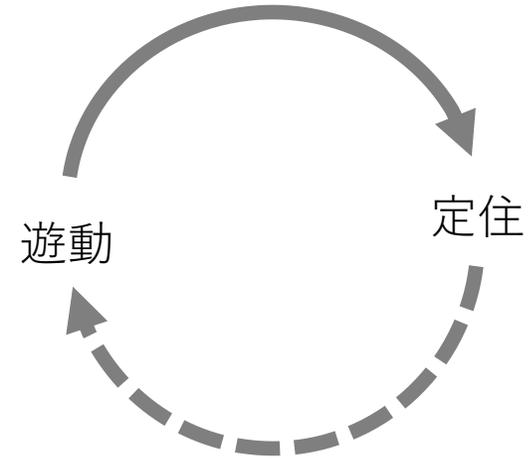
人類学的にみると：

定住して狩猟採集の時代が長かった

遊動生活が立ち行かなくなって定住した
(西田正規)

定住がストレスや退屈を生んだ
(國分功一郎)

二地域居住 (脱定住生活) は人新世へのソリューション
(山極壽一)



遊動を基調にすると (大野 2012)

- ・ 移動型 旅を続ける
- ・ 沈潜型 気に入った町に長期滞在する
- ・ 移住型 母社会と移住社会を同時に生きる
≡ 二地域居住
- ・ 生活型 統治から逃れて漂泊生活をする
≡ 『ゾミア』 (スコット)

大野哲也 (2012)

『旅を生きる人びと バックパッカーの人類学』

留まっていることがデフォルトだから、

移動は損失でありコスト

効率に価値を置く移動の概念からすると、
渋滞、遅延、事故… ネガティブ評価

スムーズで効率的なモーダルシフト
乗り物から乗り物への乗り換え
バス停の最適配置、自由乗降区間の是非

路線バス、オンデマンド、ライドシェア、
遠隔診療、移動販売
何か効率的か、費用対効果が最もよいのは？

生き物としての人間は、
動くことがデフォルトだとすると

しかたなく留まる

-寝る

-疲れて休む

統治に捕まる

望んで留まる

何かに惹きつけられて留まる = **道草**

定住は、遊動生活の道草？

低速モビリティ及びモビリティハブがつくる
<よどみ>に関する研究-ヨソモノが地域に主体的に関
わるきっかけに着目して-（日比野、2022年度）
→ **<よどみ>**に価値をおいた地域交通のデザイン

→ モビリティ・ハブ

集まる拠点から地域の移動を考える

集まる拠点が移動の起点になる、きっかけになる

マイナンバーカードや WEB アプリをバスの運行に実際に活用して、運用課題やノウハウの検証を目的とした実証実験を進めた。

- ・事業者や行政が、マイナンバーカードの情報により、乗車する人の属性によって、運賃を調整することを将来的に想定。

→ **住民自身が決めるモビリティ自治の可能性**

- ・路線バスの定時運行は、単なる移動手段だけでなく高齢者の生活リズムを支えている。

→ **路線バスは地域の基盤？**



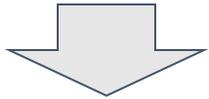
マイナンバーカードで乗車



実証実験参加者との議論

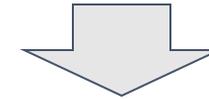
さきもび2021, 2023 でわかったこと

- ・生活者と来訪者双方が
利用することによる効率化
- ・道草や〈よどみ〉に価値を置いた
地域交通デザイン



- ・生活者と来訪者双方が
ともに**道草**を楽しむモビリティ

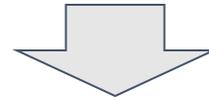
- ・移動データ活用による最適化
- ・路線バスは人びとの移動だけでなく
生活リズムを支えている



- ・データを活用したモビリティ**自治**

さきもび2024 国交省地域交通共創モデル実証プロジェクト

- ・生活者と来訪者双方が
利用することによる効率化
- ・道草や〈よどみ〉に価値を置いた
地域交通デザイン
- ・移動データ活用による最適化
- ・路線バスは人びとの移動だけでなく
生活リズムを支えている



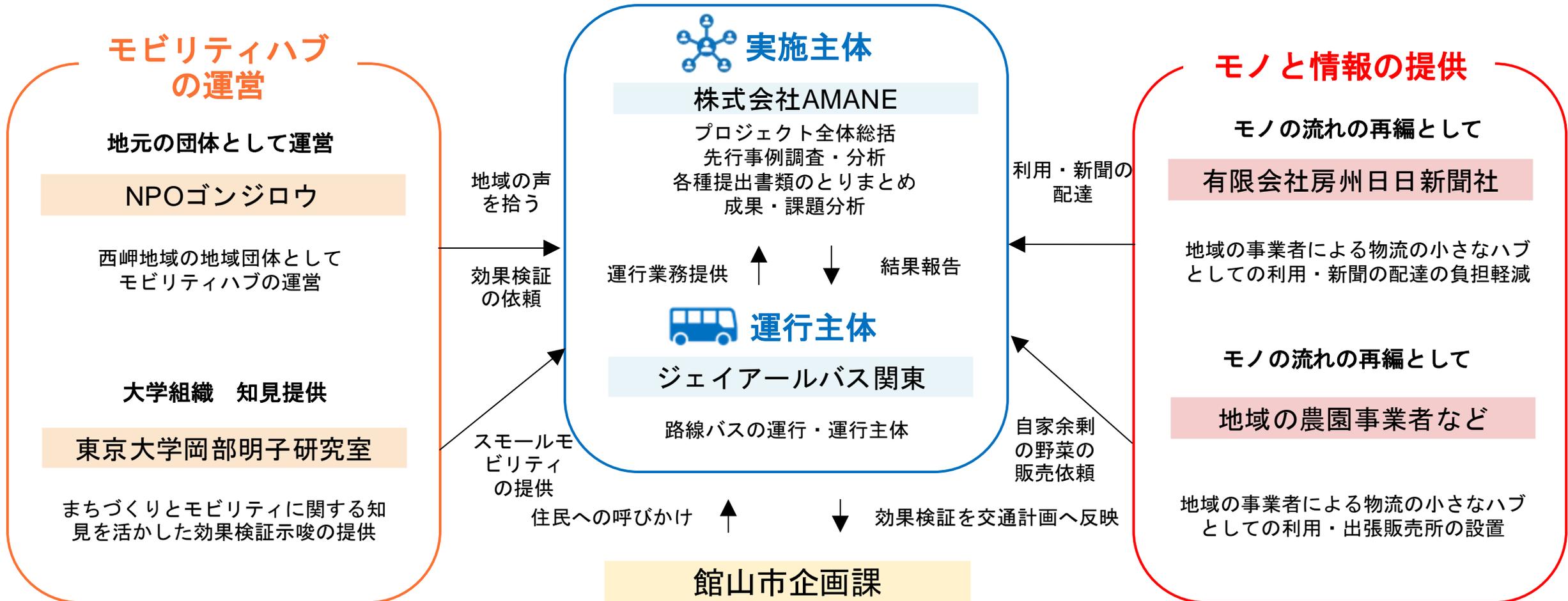
『**人やモノ、情報**が集まる拠点を
バス路線沿線に実験的につくりだそう！』

- ・生活者と来訪者双方が
ともに**道草**を楽しむモビリティ
- ・データを活用したモビリティ**自治**

さきもび2024 共創モデル 「バス停朝活から始めるモビリティ自治」

多様な事業者と行政が連携して、人やモノ、情報が集まる拠点（＝モビリティハブ）を、バス停に創出する

- ①ラジオ体操、カフェ
- ②バス停いちば
- ③路線バスで新聞配送





朝のラジオ体操ついでに 房日新聞取りに来ませんか？

※房日新聞をまとめて20部置き配送するのは実証期間限定です。今まで通り注文されているご家庭には別で新聞が届けられます。

実施日 土・日曜の朝 6月29、30日、7月6、7、13、14、20、21日
水曜の朝 6月26日、7月3、10、17日
※チラシも乗車券と一緒に提供しますよ！

場所 安房塩見バス停 (朝刊20部置く予定です。)
雨天時はバス停に設置するボックスに新聞をいれておきます

大まかな流れ

早朝
房日新聞が安房塩見バス停まで運ばれる
7:30 ごろ～ ※塩見の皆さんと時間は調整します。
ラジオ体操第一・第二で体を動かす！
7:40～8:00
新聞読みながらゆっくりコーヒータイム
7:59
館山駅行きバスが安房塩見を出発！

NPO 法人ゴンジロウ
担当者 正林泰誠 (080-1012-2785)

今後の生活のために

郵便や新聞配達などの物流を維持することが全国的な課題となっています。
その解決策として、人や物が集まる場を改めて整備し、地域で助け合いながら、暮らしの環境を維持していく必要があると考えます。
今回はその一つの手がかりとなるような今後の生活を見据えた実証実験です。塩見の皆さんと考えていきたいです。ご協力よろしくお願いします。

朝のラジオ体操ついでに 房日新聞取りに来ませんか？

※房日新聞をまとめて20部置き配送するのは実証期間限定です。今まで通り注文されているご家庭には別で新聞が届けられます。

実施日 毎週火曜日と土曜日 9月24,28日
土曜のみ房日新聞がまとめて郵送されます 10月1,5,8,12日

場所 鉦切神社入り口交差点付近
雨天時はバス停に設置するボックスに新聞をいれておきます

大まかな流れ

房日新聞が安房浜田バス停まで運ばれる
7:30 ごろ～
ラジオ体操第一・第二で体を動かす！
7:40～8:00
新聞読みながらゆっくりコーヒータイム
7:59
館山駅行きバスが安房浜田を出発！

NPO 法人ゴンジロウ
担当者 正林泰誠 (080-1012-2785)

今後の生活のために

郵便や新聞配達などの物流を維持することが全国的な課題となっています。
その解決策として、人や物が集まる場を改めて整備し、地域で助け合いながら、暮らしの環境を維持していく必要があると考えます。
今回はその一つの手がかりとなるような今後の生活を見据えた実証実験です。塩見の皆さんと考えていきたいです。ご協力よろしくお願いします。



① ラジオ体操、バス停カフェ



7：30～のラジオ体操



ラジオ体操後のバス停カフェ

② バス停いちば



館山市の農園のトウモロコシ（6月）



塩見や浜田でとれた野菜（9月）

③ 新聞配達拠点



バスで新聞をまとめて運ぶ



ラジオ体操後に集まって新聞を読み合う

参加者アンケート

バス停朝活

塩見 10人程度、浜田 5人程度（常連） 女性8割

- ・ ほぼ全員が、バス停から徒歩5分以内に居住
 - ・ 大多数が路線バスがなくなることへの不安を抱いている。
 - ・ 9割が移動に自家用車を利用して、バスに数十年乗っていない。
- バスに乗ろうと思えば乗れる人が**乗らず**に、バスの**存続を望んでいる**。
-
- ・ バス停朝活がきっかけで、太極拳に参加する人が倍増。
 - ・ 外出機会が増えた。
- 自宅最寄りの人の集まる拠点を、**移動の起点**として**デザイン**すること。

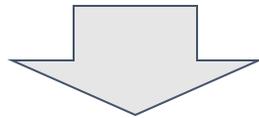
さきもび2024 共創モデル 「バス停朝活から始めるモビリティ自治」

バス停朝活をやってみて：

路線バスを利用することとは無関係…

「利用する人にとっても、利用しない人にとっても

路線バスは地域の基盤」



バスを体験して知るために：

朝活バス停から

路線バスに乗ってみんなでピクニック！

モビリティ自治の小さな一歩？

国土交通省 2024 年度
地域交通共創モデル実証
プロジェクトの補助事業

10月13日（日）
洲崎線 9 時台の館山行きバスに乗車 /
・安房浜田バス停 9:47 発
・安房堀見バス停 9:48 発
・香谷バス停 9:49 発

路線バスを使ってお出かけ
学生と一緒に城山公園へ行きませんか？

何のために？
①バスの利用方法について知ってもらい
日常利用するきっかけを作るため。
②地域のおみなさんとの
思い出作りのため。

**タイム
スケジュール**
9 時台のバスに乗車 /
10:00 城山公園前バス停に到着
ヤックスで飲み物とお菓子などの買い出し
10:15～10:45 お茶会 ※ 入口の公園広場
10:45～11:30 自由時間
→シャトルバスで展望広場まで行くことも可
11:30～11:45 記念写真
11:56 城山公園前出発
12:10 帰 帰宅

必要なもの
 参加費は無料。ただし、バスの
運賃とお菓子代などのご用意をお
願います。
 若き溢れる元気なお体
(座るためのシートやゴミ袋などの備品は
こちらで用意いたします。)

連絡先
NPO 法人ゴンジロウ
080-1012-2785 (正林)

参加者18名がそれぞれのバス停に集まって路線バスに乗り、10分ほどかけて館山市街地にある城山公園まで行った。

多くの参加者が数十年ぶり乗車するために、乗り方を初めて知る方もいらっしやった。

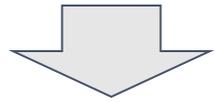


城山公園近くには薬局スーパーがあり、そこで各自買い出しをしてピクニックをした。

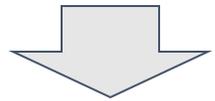
普段は車の運転でお酒が飲めないお母様方も、自分のペースで飲めると新たなバス移動の価値を見出していた。

移動の起点を共創することから始めて、自律的に移動する未来へ

- 生活者と来訪者双方が
利用することによる効率化
- 道草や〈よどみ〉に価値を置いた
地域交通デザイン

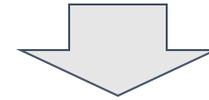


バス停朝活

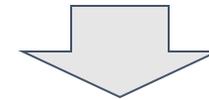


- 生活者と来訪者双方が
ともに**道草**を楽しむモビリティ

- 移動データ活用による最適化
- 路線バスは人びとの移動だけでなく
生活リズムを支えている



路線バスでピクニック



- データを活用したモビリティ**自治**